

衛星放送日本語教育プログラム「にほんごだいすき」の紹介

オーストラリア ニューサウスウェルズ州小学校用テレビ番組

ニューサウスウェルズ州学校教育省主任教育官
エヴェリン・マーク

このコーナーでは、特色ある日本語教育を実践している
機関の教師の方々に、現場のコースデザインやコース運
営の状況について、紹介していただきます。



1. はじめに

ALSプログラム(Access to Languages via Satellite)は、ニ
ューサウスウェルズ州教育省のイニシアティブで始ま
った初等外国語教育のテレビ番組シリーズで、「にほん
ごだいすき」はその日本語のコースです。ニューサウス
ウェルズ州政府は、小学校高学年に外国語を学ばせる
ことと、教育の場におけるテクノロジーの果たす役割を
高めることを大きな方針にしており、このプログラムは
その両方をオーストラリアの小学校に提供しています。

番組は毎回生放送で、スタジオから放送衛星を使って
直接学校に送られます。そのためオーストラリア全土の
学校で同時に生徒が同じことを学ぶことができます。
またクラスルームの先生は、あたかも番組のプレゼンタ
ーと一緒に生徒を教えるような雰囲気が得られます。

1997年に放送されているレベルはつぎのとおりです。

- ・この番組を初めて見る生徒のための初級レベル
- ・この衛星放送、または他の日本語学習プログラムを経
験した生徒のための継続生レベル
- ・継続生レベルを終了した生徒のための継続生上級レ
ベル1

「にほんごだいすき」の最大の特徴は、スタジオとク
ラスルームのインターアクティブ授業です。視聴者は様
様な方法で、スタジオのプレゼンターにコンタクトが出
来ます。放送中に電話をかけたりファックスを送ったり
するだけでなく、自分達の写真や作品を郵便で送ること
も出来ます。また子供達は、放送時間外でも電話やファ
ックス、Eメールでプレゼンターと会話が出来ます。

プログラムに参加する学校には、番組の手引きやテキ
スト類が送られます。これは各学級で番組を見たあと30

分のフォローアップ授業をすることが、このコースの大
切な要素になっているからです。

2. 番組の背景

「にほんごだいすき」は、オーストラリア全土の小学
校にむけて95年に試験放送が開始されました。この年
の放送に参加した生徒数は、ニューサウスウェルズ州
で二万人、その他オーストラリア各州の公立、私立校あ
わせて五万人になりました。96年にはその数はオースト
ラリア全土で十万人にのぼりました。97年もほぼ同じ数
の生徒が番組に参加しています。

「にほんごだいすき」の初級レベルは、現在週に三回、
オーストラリア国営のテレビ局SBSからも全国放送され
ています。これにより、衛星放送の受信設備をもたない
一般の視聴者も番組を見ることが出来るようになりました。
97年には「にほんごだいすき」のホームページも作
られ、番組の地平線が飛躍的に広がりました。

3. 番組の内容

「にほんごだいすき」の三つのレベルが対象としてい
るのは、八才以上の児童(小学三年生から六年生)です。
第二言語習得の研究によると、子供が母国語を確立する
この年齢が、外国語を学び始めるのにも最適の時期であ
ることが報告されています。

- ・初級レベルでは児童がコミュニケーションの基礎を身
につけるように、日本の子供達が日常使うのと同じ言
葉を学びます。ここではひらがなも紹介されます。
- ・継続生レベルのプログラムは、初級レベルの積み重ね
として作られ、言語的に少し複雑な「です、ます」の
言葉も状況にあわせて使われます。

・継続生上級レベル1ではそれに加えて、書く能力をも含めた言語能力の向上をめざします。

プログラムは言語学習および教育法のコミュニケーションアプローチに基づいて作られています。言語は実際に使うことによるのみ身につくため、学習者が積極的にプログラムに参加することが強調されます。「にほんごだいすき」のインターアクティブ授業はこの意味でも極めて大切な要素です。

番組では基本的に日本語のみが使われ、英語は日本文化を紹介するパートでしか使われません。学習者は番組で使われる日本語をすべて理解する必要はありません。テレビというメディアを通して、学習者は何が起きているかを理解するヒントが与えられるからです。番組で使われる日本語は、小学生が同年代の友達と会話するのにふさわしいものに限られ、放送の中でくりかえして現われます。

トピックと語彙については、八才から十二才の児童にアピールするもので、しかも子供の生活にとって重要なものが選ばれます。たとえばこれまでに、自分たちについてのこと、興味のあることや趣味、家族や友達について、またからだや健康、それに夏休みや冬休みについてが番組で取り上げられました。

番組で使われる日常会話の日本語は、生徒の年齢にふさわしいだけでなく、学習者にとって理解しやすいものが選ばれ、それによって生徒達はコミュニケーションの基礎を効果的に学ぶことが出来ます。1997年にニューサウスウェールズ州が公示する小学校用日本語指導要領でも、このレベルの日本語が採用されています。

4. 先生へのサポート体制

番組を生徒達と一緒に見るクラスルームの先生が、有効にこのプログラムを活用出来るように、周到なサポートシステムがあります。これから放送される番組についての説明がされる教師向け放送、電話によるヘルプライン、教育省の日本語コンサルタントによる時間割についての助言や、学校訪問があります。

プログラムに参加している学校にはオーディオテープ、テキスト類がパッケージとして送られますが、それには以下のものが含まれます。

- ・番組毎に紹介される言語と文型をまとめたアウトライン
- ・番組のフォローアップに使う30分授業のプラン
- ・パッケージに含まれる教材の説明
- ・練習ドリル

- ・模範回答
- ・生徒の進捗をチェックするための指針
- ・フラッシュカード等の副教材
- ・オーディオテープとそのスクリプト

このパッケージを使ってクラスルームの先生は、番組をフォローする30分程の授業をすることが出来ます。同時に自分のクラスの時間割に日本語を効果的に組み込むよう期待されます。また学校単位でも、番組が扱うトピックや日本文化についての情報が与えられ、他の科目や学校での催し物に日本語学習の成果を活用することが出来ます。

5. 番組の評価

95年に実施された「にほんごだいすき」に関するアンケートによると、このプログラムは、各学校ですで行われている日本語の授業の補助としても、またこれ自体独立した外国語学習のコースとしても有効に使われていることが明らかになっています。

アンケートに答えた学校長のほとんどが、プログラムは学校全体のカリキュラム作成や、生徒の学習態度向上に好ましい貢献をしているとのべています。プログラムによって生徒達は、日本と日本人にだけでなく、プログラムが使用する衛星放送等のテクノロジーにも興味を示すようになり、他の科目、社会科や技術科等にも好ましい影響がみられるとのこと。また、生徒達が日本語を学習することによって、英語に対する理解が深まるというのも、非常に大きな利益です。

プログラムの最大の利点は、これまで日本語教育の機会に恵まれなかった遠隔地の学校でも、日本語や日本文化について学べるようになった事です。これはオーストラリアのような広大な国では、児童に公平に学ぶ機会をあたえるという意味で非常に重要なことです。

6. 今後の展望

プログラムは小学校高学年の四年間に、一連の継続学習を供給することを目的としています。1997年に開始されたインターネットは、外国語学習にテクノロジーの果たす役割を一層広げることになりました。インターネットを使って生徒、先生だけでなく学校や父兄も日本語学習や様々なアクティビティに参加したり、手紙(メール)や自分達の作品を送ったりすることが出来ます。

1998年にはプログラムは四年目に入り、継続生上級レベル2の放送が計画されています。三年間の学習に続く

このレベルは、ちゅうがくこうこう まな にほんご 中学高校で学ぶ日本語への橋渡しともなります。

7. にほんごだいすきチーム

プログラム作成に携わっているチームのメンバーは皆さくせい たすま みな 経験豊かな日本語教師で、日本語とその指導法についてけいけんゆた にほんごきょうし にほんご しどうほう の広範な知識だけでなく、オーストラリアのしょうがっこうきょういく 小学校教育についても豊かな経験と理解を持っています。

このチームの責任者エヴェリン・マークは、20年せきにんしゃ ねん い 以上の経験を持つ外国語教育のベテランです。この他ほか チームのメンバーは以下の人々です。い か ひとびと

- 日本生活が長く、日本語とその文化に一言を持つプロフェッショナル、リンダ
- そのユーモアのセンスでプログラムに不可欠のスペースを効かせるトシキ
- 言語教育と児童教育双方に天性の才能を發揮するヒラリ
- 日本文化に深い洞察を持ち、教授経験豊かなチームの御意見番、トリッシュ
- 子供から老人まで、教授範囲の広さを誇る日本語教師メリル

Introduction to the “Nihongo Daisuki”, the ALS Program: TV program for the primary school, the New South Wales Department of School Education in Australia

Evelyn Mark,
Principal Education Officer with Curriculum Directorate
The New South Wales Department of School Education

1. Context

The Access to Languages via Satellite or ALS programs are developed by the Curriculum Directorate of the New South Wales Department of School Education. The programs provide curriculum support to meet the government's commitment to the extension of languages in primary schools from year 3 to year 6 and to enhance the use of technology in learning and teaching.

The programs are live to air programs and they are beamed directly from the studio via satellite to schools so that children can watch the broadcasts at the same time as they actually happen. The classroom teacher works in a team teaching situation with the teacher / presenter on the broadcasts.

Schools view two 30 minute broadcasts each week in each of three levels:

- a beginners' level
- a continuers' level
- a continuers' advanced level 1.

Schools can interact with the presenters in the studio in a variety of ways, through telephone and fax during the broadcasts and by sending in class photos and classwork for presentation on the program. Children can also contact the presenters outside broadcast times, using phone, fax and email.

Prior to the broadcasts classroom teachers receive print support materials to assist them in the face-to-face teaching components of the course. These provide an additional half hour of classwork to follow each broadcast.

2. Background

The Nihongo Daisuki programs began in 1995 during which the Japanese programs were broadcast nationally over the Satellite Education Service. Over 20000 students in New South Wales were involved in this pilot program and a further 30000 from government and non-government schools across Australia participated. In 1996 total numbers were extended and close to 100000

students Australia-wide took part in the programs. A similar number of students is enrolled in 1997.

Children across Australia can also watch the Nihongo Daisuki beginners' level course in Japanese on television Channel 28 (SBS) on three afternoons each week. In 1997 there will even be a Nihongo Daisuki Internet site for the students to visit.

3. Content and Curriculum

The three levels provided by the Nihongo Daisuki programs target children from 8 to 9 years of age onwards. Research into second language acquisition indicates that this is the optimum time to begin language study, it is an age at which most children have developed early literacy skills in their first language. The three levels that are available in 1997 are:

- a beginners' level for those schools new to the programs;
- a continuers' level for those schools that have been involved in satellite or other language programs;
- a continuers' advanced level 1 for those students who have completed the continuers' programs.

The beginners' level programs focus on informal language so that children can develop a broad language base with which to communicate. The students are also introduced to hiragana.

The continuers' level programs build on the beginners' programs and make links between informal and formal language, where appropriate.

The continuers' advanced level 1 programs build on the continuers' programs and aim gradually to provide enhanced development of all skills including writing skills.

The planning of the programs is based on the Communicative Approach to the learning and teaching of languages. It is based on the idea that language is learned through use. The Communicative Approach emphasises the active participation of the learner in the learning

process.

Language is presented in context in the broadcasts and English is only used in the cultural segments. It is not necessary for the children to understand every word at first, as the programs are designed to provide visual clues to help them work out meaning. The language used in the Japanese broadcasts is only that language that the children will need to use and is repeated throughout the programs.

The topics and the related language are designed to appeal to the 8-12 age groups and to focus on language which is meaningful and relevant to the children. They learn to talk about themselves and their interests and hobbies, about their family and friends, about health and holidays and so on.

The programs focus on informal language which is more natural for primary aged children. It makes the Japanese language accessible and allows these children to rapidly gain the skills required to communicate in simple everyday language. It is also the language recommended in the New South Wales Japanese K-6 syllabus document due to be released in 1997.

4. Teacher Support

Teacher support is provided through a teacher broadcast which provides demonstrations of practical classroom strategies that teachers can use in the face-to-face teaching components of the course. There is a Helpline for teachers to contact and a Japanese consultant is available to provide curriculum support through workshops and school visits.

Teachers are also provided with print and audio support materials for use in the classroom, including:

- unit and broadcast outline containing the language and structure introduced in the broadcast
- suggested follow-up lesson plans equivalent to half an hour
- detailed guidance on effective use of the resources provided
- worksheet masters for exercises and activities across a range of ability levels
- teacher answer sheets
- assessment strategies, including self-assessment sheets
- resources, such as flashcards
- audio tapes and accompanying scripts.

The ALS broadcasts and materials provide a total of two hours of language work per week. The broadcasts run twice a week for half an hour and each broadcast is followed by a face-to-face classroom lesson of half an hour to reinforce and consolidate the language taught during the programs.

Teachers are encouraged to integrate Japanese into the curriculum and activities and exercises that are provided give guidance to facilitate this process. Schools are provided with topic areas, specific language and culture, so that they can incorporate Japanese into their planning for other Key Learning Areas.

5. Evaluation

An evaluation of the Nihongo Daisuki course which was conducted in 1995 indicated that the design of the

course permitted teachers to use it to complement an existing language program or to implement it as a discrete, structured language acquisition program.

The majority of school principals reported that the satellite programs had contributed to the overall curriculum of the school and had improved the children's attitude to learning in general. The programs had increased the children's interest in Japan and its people and in the technology used to deliver the programs, which had positive benefits in other curriculum areas such as Human Society and Its Environment and Practical and Creative Arts in particular. Another enormous benefit was the awareness and improvement in children's English language skills.

The greatest advantage of the programs is the access provided to isolated and remote schools which offers these children the opportunity to study the Japanese language and to learn about the country and its customs.

6. Future Plans

The programs are designed to provide continuous and sequenced language study throughout four years of primary schooling. The development of an Internet site in 1997 will allow students to extend their use of technology in the language learning. The site allows children, teachers and the community to access activities and information, to contribute to a newsletter and to send work in.

In 1998 there are plans to develop a fourth stage in the programs - the continuers' advanced level 2 which will build on their previous three years of study and will be designed to facilitate the transition from primary to secondary Japanese learning.

7. The Nihongo Daisuki team

The writers and presenters are all experienced classroom practitioners with a depth of knowledge of the language and of language teaching methodology and an understanding of the needs and interests of primary school students across a range of ability levels.

Evelyn Mark, Principal Education Officer with Curriculum Directorate, who manages the team of writers and presenters from the New South Wales Department of School Education has been involved in primary and secondary languages teaching for over 20 years. The Nihongo Daisuki team consists of five specialist Japanese teachers:

- Linda Chiba - a committed professional who has spent many years in Japan studying the language and culture.
- Toshi Kurita - an accomplished linguist with a dry sense of humour which is vital to the success of the programs.
- Hilary Norrie - a talented language teacher with a strong background in primary and secondary Japanese teaching.
- Trish Takahashi - a highly qualified and experienced teacher of Japanese who studied in Japan and has an intimate knowledge of Japanese culture.
- Merryl Wahlin - a skilled language teacher who has taught Japanese to a range of students from kindergarten level through to matriculation.

